

学科 学年	C2	科目 分類	材料科学概論 Materials Science	講義 必修	前期 1単位	学習教育目標 2	担当 山根説子、大川政志 Setsuko Yamane & Masashi Ohkawa
概要	私達の身の回りにはモノがあふれているが、それらのモノは何からできているのだろうか。例えば、伸びたり縮んだりできる輪ゴムは何からできているのだろうか。本科目は化学I、化学IIで習得した内容を踏まえ、種々の材料について構造式、合成方法、性質について説明する。						
科目目標 (到達目標)	身の回りにある材料に対して親しみを持ち、学習内容に基づいて簡単に分析できるようになる。						
教科書 器材等	数研出版 高等学校 化学II、プリント配布、プロジェクター						
評価の基準と方法	Short Test 20%、定期試験80%とする。合計60点以上を合格とする。Short Testは原則として毎回行う。						
関連科目	化学I、化学II、有機化学、生物化学、無機化学、酵素工学						
授業計画							
	参観	(授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)					
第1回		シラバスの説明、第3編：高分子化合物の特徴と分類					
第2回		第3編：高分子化合物の構造と性質					
第3回		第3編：天然有機化合物 糖					
第4回		第3編：天然有機化合物 タンパク質、油脂					
第5回		第4編：金属					
第6回		第4編：セラミックス					
第7回	×	前期中間試験					
第8回		第4編：食品中の成分、保存料と添加物					
第9回		第4編：繊維					
第10回		第4編：染料と洗剤					
第11回		第5編：合成樹脂、天然ゴムと合成ゴム					
第12回		第5編：生命体を構成する物質					
第13回		第5編：生命を維持する化学反応					
第14回		第5編：医薬品、肥料					
第15回	×	前期末試験					
オフィスアワー	月、水、金曜日の放課後(山根)						
授業アンケートへの対応	丁寧に板書を行う。						
備考	授業内容に沿ってリード を利用し、復習を行うこと。						
更新履歴	20100326 新規						

学科 学年	C2	科目 分類	微生物学[微生] 501700	講義 必修	後期 1単位	学習教育 目標 2	担当	蓮実 文彦 HASUMI Fumihiko
概要	微生物学は1年で学習した生物学に続く生物系の科目であり、以降に行われる生物系の専門の基礎となる。つまり、これまで学習してきた生物学と技術としてのバイオテクノロジーに関する学習の橋渡しとしての役目を持つ科目である。以降の生物系専門の学習への興味を喚起するためにも、社会の中で微生物が果たしている役割や将来への発展の可能性についても紹介する。							
科目目標 (到達目標)	代表的微生物の性質についての知識を学ぶ。微生物が行う代謝や自然界での役割に関する基本的知識を獲得する。微生物を取り扱う方法に関する知識を獲得する。							
教科書 器材等	久保・新川・蓮実著、バイオテクノロジー（大学教育出版）、堀越・中村著、微生物実験ラボガイド（講談社サイエンティフィック）							
評価の基準と 方法	定期試験80%、課題（小テスト）と授業への取り組み姿勢（ノートで評価）を合わせ20%として評価する。							
関連科目	生物学、微生物学実験、培養工学							
授業計画								
	参観	（授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。）						
第1回	×	微生物学の歴史（1）						
第2回		微生物学の歴史（2）						
第3回		微生物の分類と命名						
第4回		微生物学各論（細菌）						
第5回		同（放線菌）						
第6回		同（真菌）						
第7回		同（真菌）、中間試験						
第8回		微生物学各論（酵母）						
第9回		光合成細菌						
第10回		微生物代謝						
第11回		微生物の遺伝子（1）						
第12回		同（2）						
第13回		微生物の増殖						
第14回		微生物増殖過程の測定						
第15回		学年末試験						
第16回								
第17回								
第18回								
第19回								
第20回								
第21回								
第22回								
第23回								
第24回								
第25回								
第26回								
第27回								
第28回								
第29回								
第30回								
オフィス アワー	昼休み、木曜日放課後に比較的質問に対応できる。							
授業アンケート への対応	試験問題の量の多さが指摘された。小テストを行い対応したい。							
備考								
更新履歴	20101205 訂正							

学科 学年	C2	科目 分類	分析化学[分析] Analytical Chemistry	講義 必修	通年 2履修単位	学習教育 目標 2	担当	藁科知之 WARASHINA Tomoyuki
概要		分析化学は、物質の化学組成を定性的あるいは定量的に解析することを目的として現在まで発展してきた。ここでは、主に水溶液中で起こる現象（溶解）を考え、そこで起こる化学反応についても丁寧に解析する。分離法の一つである溶媒抽出についても学ぶ。						
科目目標 (到達目標)		溶液の濃度計算、pHの計算、平衡定数の計算ができる。酸塩基平衡、沈殿生成平衡、錯体生成平衡が理解できる。溶媒抽出の原理を理解できる。						
教科書 器材等		【教科書】：①佐竹正忠，御堂義之，永廣徹著，分析化学の基礎，共立出版。②改訂版 高等学校 化学I・II，数研出版。 【参考書】：①今泉洋ら著，基礎分析化学，化学同人。②高木誠編著，ベーシック分析化学，化学同人。③奥谷忠雄ら著，基礎教育分析化学，東京教学社。						
評価の基準と 方法		定期試験80%（前期中間20%，前期期末20%，後期中間20%，後期期末20%），演習ノート（課題＋自学自習）10%，小テスト10%で評価する。						
関連科目		化学I，化学II，化学III，物質工学実験（分析化学実験），機器分析I，機器分析II						
授業計画								
	参観	（授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。）						
第1回		シラバスの説明，分析化学の概要，溶解現象：溶媒と溶液と溶質						
第2回		電解質溶液の特性(1)：電解質の分類，水について①						
第3回		電解質溶液の特性(2)：水について②						
第4回		SI単位系，接頭語，単位換算，有効数字						
第5回		溶液の濃度(1)：モル濃度，百分率						
第6回		溶液の濃度(2)：モル分率，ppm，ppb，グラム当量，規定濃度（規定度・当量濃度）						
第7回		均一系イオン平衡(1)：化学平衡と平衡定数						
第8回		演習						
第9回	×	前期中間試験						
第10回		前期中間試験の解説，均一系イオン平衡(2)：酸と塩基の定義						
第11回		均一系イオン平衡(3)：酸解離の平衡定数，水の電離（水のイオン積）						
第12回		均一系イオン平衡(4)：pH計算，濃度均衡，電荷均衡，プロトン均衡						
第13回		演習						
第14回		酸と塩基の平衡(1)：強酸と弱酸						
第15回		酸と塩基の平衡(2)：強塩基と弱塩基						
第16回		酸と塩基の平衡(3)：塩の加水分解						
第17回		酸と塩基の平衡(4)：pH緩衝溶液						
第18回		演習						
第19回	×	前期期末試験						
第20回		前期期末試験の解説，均一系イオン平衡(5)：活量，活量係数，イオン強度						
第21回		溶解平衡と沈殿生成(1)：溶解度，溶解度積						
第22回		演習						
第23回		溶解平衡と沈殿生成(2)：分別沈殿，溶解平衡に及ぼす様々な因子①						
第24回		溶解平衡と沈殿生成(3)：溶解平衡に及ぼす様々な因子②						
第25回		溶解平衡と沈殿生成(4)：沈殿生成の例（水酸化物）						
第26回		演習						
第27回	×	後期中間試験						
第28回		後期中間試験の解説，金属錯体の平衡(1)：錯体，配位子，キレート						
第29回		金属錯体の平衡(2)：逐次生成定数，全生成定数						
第30回		金属錯体の平衡(3)：金属錯イオンの組成分布						
第31回		金属錯体の平衡(4)：多座配位子						
第32回		溶媒抽出(1)：分配平衡，分配係数						
第33回		溶媒抽出(2)：分配比，抽出率						
第34回		溶媒抽出(3)：多段階抽出						
第35回		演習						
第36回	×	後期期末試験						
第37回		後期期末試験の解説						
オフィス アワー		水曜日14:40～17:00（それ以外でも，基本的には放課後に受け付ける） 連絡先：Tel 055-926-5859，e-mail wara@numazu-ct.ac.jp						
授業アンケート への対応		学生が積極的に授業に参加できるように，板書を工夫する。						
備考		【要復習・予習】指数関数・対数関数の計算，高等学校化学I・II（酸と塩基の反応，溶液，化学反応の速さ，化学平衡）						
更新履歴		20100319 新規 20100324 改訂						

学科 学年	C2	科目 分類	物質工学演習I [物工演習I] Exercise in Chemistry and Biochemistry I	講義 必修	通年 1単位	学習教育 目標 2	担当	大川 政志 OOKAWA Masashi
概要	化学では単に講義を聞くだけでは身につかず、問題を繰り返し解くことにより修得できるものである。ここでは科学の基本的な考え方を基礎的な演習をとうして習得させることを目的とする。							
科目目標 (到達目標)	一般必修科目の「化学」の講義内容について「リード α 化学 I+II」の問題(リード C)が解けるようにすること。「リード α 化学 I+II」の問題(リード C)は、教科書の個々の内容に対応した標準的な問題となっている。							
教科書 器材等	教科書:リード α 化学 I+II (数研出版株式会社) 参考書:Let's Try Note, (東京書籍出版)							
評価の基準と 方法	評価は、毎時間行う小テストと定期試験で行う。全小テストの合計を40点満点、定期末試験を50点満点、加えて自己評価10点満点の合計が60点以上のものを合格とする。ただし、小テストを受験するためには毎回決められた演習問題を提出する必要がある。							
関連科目	化学, 物質工学科のすべての専門科目							
授業計画								
	参観	(授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)						
第1回		オリエンテーション/実力確認試験(1)						
第2回		物質量と化学反応式(1)						
第3回		物質量と化学反応式(2)						
第4回		物質の変化(1)						
第5回		物質の変化(2)						
第6回		化学結合(1)						
第7回		化学結合(2)						
第8回		実力確認試験(2)						
第9回		物質量と化学反応式(3)						
第10回		物質量と化学反応式(4)						
第11回		物質の変化(3)						
第12回		物質の変化(4)						
第13回		化学結合(3)						
第14回		化学結合(4)						
第15回		実力確認試験(3)						
オフィス アワー	火曜日 16:00-17:00							
授業アンケート への対応	適宜演習解説を行う							
備考	電卓を持参すること							
更新履歴	20100326 新規							

学科 学年	C2	科目 分類	分析化学実験[分実] Exp. Analytical Chemistry	実験 必修	4-7月 3履修単位	学習教育 目標 1, 2, 3, 5	担当	藁科知之 WARASHINA Tomoyuki
概要	分析化学実験は、今後行う様々な化学実験の基礎をなす。基礎的な定性・定量分析を通して、ガラス器具や天秤など様々な器具や装置の取り扱い方、実験データの記録およびデータ処理、レポートの作成など以後の実験に不可欠な事項について学ぶ。							
科目目標 (到達目標)	実験に取り組む基本姿勢、実験に必要な基本的操作、実験ノートの書き方（実験の記録、溶液の濃度計算など）、データ処理（有効数字、実験値の統計処理など）、レポートの作成などの基本かつ重要な技術を身に付けることを目標とする。							
教科書 器材等	【教科書】：①学科作成の実験書。②化学同人編集部 編，第7版 実験を安全に行うために，化学同人。③化学同人編集部 編，新版 続実験を安全に行うために，化学同人。④化学同人編集部 編，実験データを正しく扱うために，化学同人。⑤泉美治ら著，改訂 化学のレポートと論文の書き方，化学同人。【参考書】：①佐竹正忠ら著，分析化学の基礎，共立出版。②長島弘三ら著，分析化学，裳華房。							
評価の基準と 方法	提出されたレポート80%，日頃の実験への取り組み姿勢20%とする。							
関連科目	化学I，化学II，化学III，分析化学，機器分析I，機器分析II							
授業計画								
	参観	(授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)						
第1回		分析化学実験の概要説明（シラバス説明）						
第2回		定量分析に関する講義，実験ノートの作成方法，実験の安全，実験器具・天秤の扱い方講習①						
第3回		中和滴定に関する講義および演習（溶液の濃度計算），容量器具・天秤の扱い方講習②						
第4回		実験ノートの実験前チェック，中和滴定（標準溶液の調製，塩酸溶液の標定，水酸化ナトリウム溶液の標定）						
第5回		実験内容の整理およびデータ処理について：有効数字，実験値の統計処理など						
第6回		レポートの書き方						
第7回		中和滴定（ソーダ灰の定量：ワルダー法）						
第8回		実験内容の整理，定性分析に関する講義，定性分析実験準備						
第9回		第1族陽イオンの分離・検出						
第10回		実験内容の整理，レポート作成						
第11回		第3族陽イオンの分離・検出						
第12回		実験内容の整理，レポート作成						
第13回		第2族陽イオンの分離・検出						
第14回		第2族陽イオンの分離・検出						
第15回		酸化還元滴定に関する講義および演習						
第16回		酸化還元滴定（過マンガン酸カリウム滴定）						
第17回		酸化還元滴定（ヨウ素滴定）						
第18回		レポート作成						
第19回		キレート滴定に関する講義および演習，キレート滴定の準備（亜鉛標準溶液の調製）						
第20回		キレート滴定（直接滴定法）						
第21回		キレート滴定（置換滴定法，選択滴定法）						
第22回		重量分析に関する講義および演習						
第23回		重量分析（硫酸銅中の硫酸イオンの定量）						
第24回		重量分析（硫酸銅中の硫酸イオンの定量），片付け						
第25回		予備日						
第26回								
第27回								
第28回								
第29回								
第30回								
オフィスアワー	水曜日14:40～17:00（それ以外でも，基本的には放課後に受け付ける） 連絡先：Tel 055-926-5859，e-mail wara@numazu-ct.ac.jp							
授業アンケート への対応	レポート指導の時間をできる限り設けるようにする。							
備考	各自，白衣，保護めがね，実験ノート・レポート用紙（A4），電卓を用意すること。							
更新履歴	20100324 新規 20100325 改訂							

学科 学年	C2	科目 分類	物質工学実験 (無機化学)	実験 必修	9-11 月 3単位	学習教育 目標 3	担当	大川 政志 Ookawa Masashi
概要	本科目では、無機化学に関する実験的手法を取得する。無機化学の講義がまだ実施されていないことを考慮して、講義を実施する。実験テーマが終了した翌週にレポートを提出する。							
科目目標 (到達目標)	①無機化学の分野に関する実験的技術を取得すること、②実験から導き出される理論を体験的に理解すること、③学習成果を報告書にまとめ提出できる能力を培うことを目標とする。							
教科書 器材等	教科書 : ①物質工学実験書②「化学のレポートと論文の書き方」 泉美治・小川雅彌・他 監修, 化学同人、③「新版実験を安全に行うために (事故・災害防止編)」, 化学同人、④「新版実験を安全に行うために (基本操作・基本測定)」, 化学同人、④「実験データを正しく扱うために」, 化学同人 その他 : 白衣、保護めがね、安全で動きやすい服装							
評価の基準と 方法	実験レポート 80%、実験ノート 10%、見学レポート 10%で評価する。ただし評価点 60 点以上は、全ての実験テーマの報告書及び見学レポートが全て提出されていることを条件とする。							
関連科目	無機化学 1, 無機化学 2							
授業計画								
	参観	(授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)						
第 1 回		ガイダンス・安全教育・レポート指導						
第 2 回		講義・実験「ニッケルメッキ」						
第 3 回		データ整理「ニッケルメッキ」						
第 4 回		講義「炭酸ナトリウムの製造」						
第 5 回		実験「炭酸ナトリウムの製造」(1)						
第 6 回		実験「炭酸ナトリウムの製造」(2)						
第 7 回		講義「配位化合物の合成と組成分析」						
第 8 回		実験「配位化合物の合成と組成分析」(1)						
第 9 回		実験「配位化合物の合成と組成分析」(2)						
第 10 回		実験「配位化合物の合成と組成分析」(3)						
第 11 回		講義「シュウ酸鉄錯体の合成と配位数の決定」						
第 12 回		実験「シュウ酸鉄錯体の合成と配位数の決定」(1)						
第 13 回		実験「シュウ酸鉄錯体の合成と配位数の決定」(2)						
第 14 回		実験「シュウ酸鉄錯体の合成と配位数の決定」(3)						
第 15 回		講義・実験「ガラスの着色」						
第 16 回		実験「ガラスの着色」						
第 17 回		工場見学						
第 18 回								
第 19 回								
第 20 回								
第 21 回								
第 22 回								
第 23 回								
第 24 回								
第 25 回								
第 26 回								
第 27 回								
第 28 回								
第 29 回								
第 30 回								
オフィス		火曜日 16:00-17:00						

アワー	
授業アンケートへの対応	
備考	
更新履歴	20100326 新規

学科学年	C 2	科目分類	微生物学実験[微 実]Exp. Microbiology 505260	実験 必修	3期 2.5単位	学習教育 目標 2	担当	蓮実 文彦 HASUMI Fumihiko
概要	本実験では、これまで学習した微生物学学習内容の内、重要な事項についての知識を確かなものとするため、これらを体験的に学習する。ここでは、微生物の染色、観察、培養、微生物と酵素生産との関係、単離された微生物の同定までを取り上げた。実験に先立ち、技術知識が不足している事項について、事前の講義を設けた。							
科目目標 (到達目標)	光学顕微鏡が取り扱える。微生物取り扱いの基本ができる。報告書作成ができる。							
教科書 器材等	プリント、久保・新川・蓮実著、バイオテクノロジー（大学教育出版）、堀越・中村著、微生物実験ラボガイド（講談社サイエンティフィック）							
評価の基準と 方法	実験態度（実験ノート記載内容を含む）20%、レポート80%として評価する。							
関連科目	生物学、微生物実験							
授業計画								
	参観	（授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。）						
第1回		シラバスの説明、講義（無菌操作方法と注意点）						
第2回		講義（顕微鏡のしくみと取り扱い方）						
第3回		講義（酵素活性の測定方法）						
第4回		顕微鏡により微生物の観察（グラム染色を含む）						
第5回		落下細菌の培養および大腸菌群数の測定						
第6回		アミラーゼ産生菌のスクリーニングおよびアミラーゼ活性の測定						
第7回		大腸菌の生育曲線の測定および培養条件と酵素活性との関係						
第8回		グラム陰性菌の同定						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
第16回								
第17回								
第18回								
第19回								
第20回								
第21回								
第22回								
第23回								
第24回								
第25回								
第26回								
第27回								
第28回								
第29回								
第30回								
オフィス アワー	木曜日と金曜日の放課後、蓮実研究室							
授業アンケート への対応								
備考	質問は、次ぎのメールアドレスでも受け付ける hasumi@numazu-ct.ac.jp							
更新履歴	20101205訂正							